

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

## ◎ 医学部医学科志願状況

### □ 前期は前年度並、後期はやや減少

#### 〔設置・日程別志願状況〕

		2024年度	増減数	指数	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
募集人員	前期	3,573	-20	99	3,593	3,636	3,604	3,597	3,644	3,676	3,699	3,683
	後期	351	±0	±100	351	363	408	454	524	539	541	556
	合計	3,924	-20	99	3,944	3,999	4,012	4,049	4,168	4,215	4,240	4,239
志願者数	前期	15,973	+13	100	15,960	15,087	14,773	14,742	16,390	17,064	18,093	18,342
	後期	7,063	-487	94	7,550	7,255	7,110	7,404	9,081	8,969	9,927	10,073
	合計	23,036	-474	98	23,510	22,342	21,883	22,146	25,471	26,033	28,020	28,415
志願倍率	前期	4.47			4.44	4.15	4.10	4.10	4.50	4.64	4.89	4.99
	後期	20.12			21.51	19.99	17.43	16.31	17.33	16.64	18.35	18.12
	合計	5.87			5.96	5.59	5.45	5.47	6.11	6.18	6.61	6.70

医学部医学科(以下「医学科」)一般選抜全体の志願者数は、2021 年度までは 7 年連続減少していました。

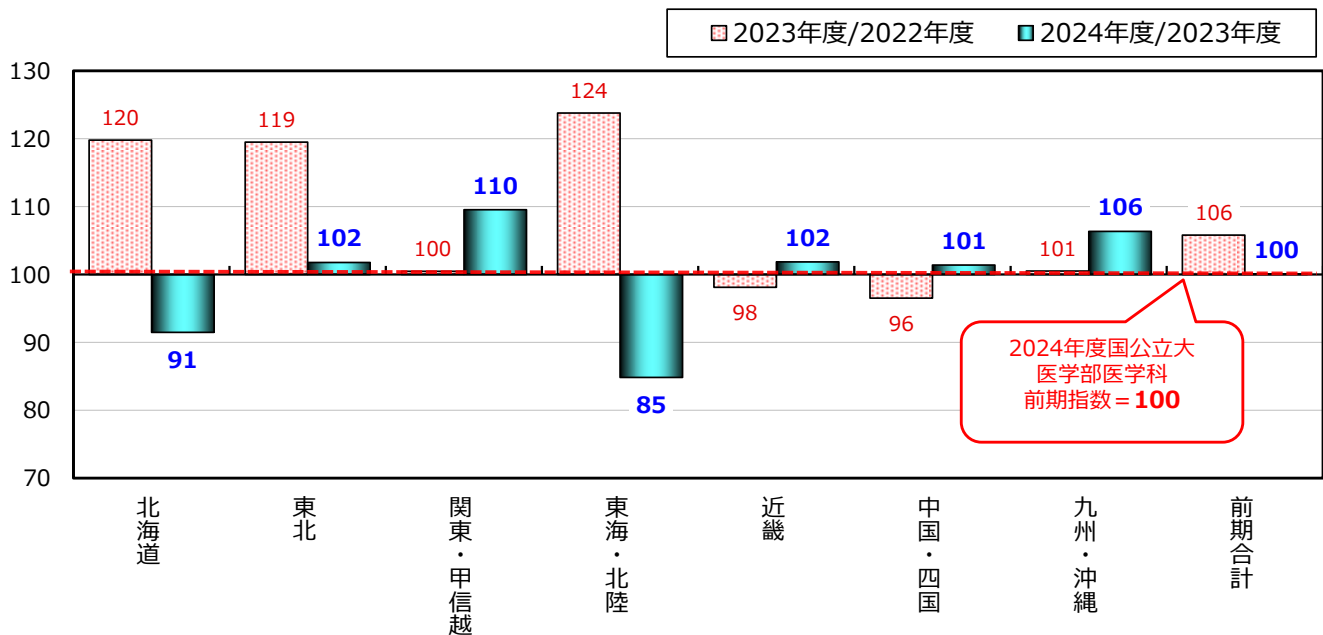
後期募集廃止大学の増加、地域枠を中心とした総合型選抜や学校推薦型選抜への募集人員の移行、受験人口減少に伴う既卒受験生の減少などが要因でした。しかし、コロナ禍による医学への関心の高まりにより、現役生の医学科志望者増加と、他系統への志望変更を考えない受験生の増加により、2022 年度、2023 年度は 2 年連続増加しました。2024 年度も募集人員が 20 人(99)減少する中で、474 人(98)の微減と前年度並に留まり、医学科への高い人気が続きました。

日程別では、前期は 13 人(100)の微増で前年度並ですが、4 年連続増加。後期は共通テストの平均点アップによる高い目標得点への敬遠から、487 人(94)のやや減少で、3 年ぶりに減少しました。この結果、志願倍率は前期が 4.44 倍→4.47 倍とわずかに 0.03 ポイントアップ、後期は 21.51 倍→20.12 倍と 1.39 ポイントダウンとなりました。

### □ 前期の地区別では関東・甲信越が増加、東海・北陸が大幅減少、北海道が減少

#### 〔地区別志願者指数〕

##### <前期日程>



前期合計では 13 人(100)の微増で前年度並でした。地区別では、関東・甲信越(110)は増加、九州・沖縄(106)はやや増加でした。一方で、東海・北陸(85)は大幅減少、北海道(91)は減少でした。

## ○北海道(91)

北海道大(101)は前年度並だが、志願者数は2年連続で300人を下回った。一方で、旭川医科大(85)、札幌医科大(89)はいずれも前年度大幅増加の反動で大幅減少。

## ○東北(102)

東北大(122)は第1段階選抜基準の緩和もあって大幅増加で、志願者数は7年ぶりに増加。弘前大(117)は3年連続大幅増加。秋田大(112)は2年連続増加。一方で、山形大(86)は入試科目から国語を除外したが、2年連続減少。福島県立医科大(87)は減少で、2017年度以降は前年度の反動による増減が継続。

## ○関東・甲信越(110)

筑波大(142)は大幅増加で2年連続増加、志願者数は6年ぶりに250人を上回った。信州大(117)は募集人員が10人(11%)減少したが、近隣の岐阜大の第1段階選抜基準の強化の影響で大幅増加、千葉大(115)も大幅増加で2年連続増加。横浜市立大(110)は増加、新潟大(107)、群馬大(106)はいずれもやや増加。一方で、東京医科歯科大(96)はやや減少。

## ○東海・北陸(85)

三重大(171)は近隣の岐阜大の第1段階選抜基準の強化および奈良県立医科大の教科試験除外などの影響で激増、福井大(126)は北陸新幹線の延伸を控えて関東からの交通の利便向上と前年度大幅減少の反動で大幅増加、金沢大(112)は募集人員を2人(2%)減少も2年連続増加、名古屋大(107)はやや増加で2年連続増加。一方で、岐阜大(34)は第1段階選抜基準の強化と2年連続大幅増加の反動で激減、富山大(53)は前年度ほぼ倍増の反動でほぼ半減、浜松医科大(65)は前年度激増の反動で大幅減少、特に地域枠は募集人員1人(14%)減少もあり激減。名古屋市立大(91)は前年度大幅増加の反動で減少。

## ○近畿(102)

和歌山県立医科大(176)は近隣の奈良県立医科大の教科試験除外の影響と前年度大幅減少の反動で激増、滋賀医科大(122)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、大阪公立大(110)、神戸大(109)はいずれも2年連続増加、大阪大(109)は前年度減少の反動で増加。一方で、奈良県立医科大(25)は教科試験除外と前年度大幅増加の反動で75%の激減、志願者数は60人を下回り、募集人員が22人になった2013年度以降最少。合格者は12人の発表だったが、欠員11人となり欠員補充2次募集を実施。京都府立医科大(82)は3年連続増加の反動で大幅減少。

## ○中国・四国(101)

中国(79)、四国(147)と前年度と逆の大幅増減、瀬戸内海を挟んで志願者の移動が起きる状況がうかがえる。愛媛大(234)は2年連続大幅減少の反動で2.3倍増以上、香川大(144)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、高知大(127)は2年連続大幅増加。一方で、鳥取大(46)は前年度ほぼ倍増の反動でほぼ半減、島根大(75)は2年連続増加の反動で大幅減少、徳島大(75)は前年度増加の反動で大幅減少、前年度の反動による増減が継続。山口大(85)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、広島大(94)はやや減少で2年連続減少。

## ○九州・沖縄(106)

長崎大(215)は前年度大幅減少の反動と募集人員の5人(7%)増加もあり倍増以上、熊本大(118)も前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、佐賀大(81)は大幅減少で6年連続減少、志願者数は200人を下回った。琉球大(82)は3年連続増加の反動で大幅減少、宮崎大(89)は前年度増加の反動で減少、鹿児島大(89)は2年連続増加の反動で減少、大分大(93)は2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少、九州大(99)は前年度減少の反動はなく、前年度並。

## &lt;後期日程&gt;

後期合計では 487 人(94)のやや減少でした。

地区別では、1 大学のみ募集である地区ではいずれも減少で、北海道(56)は旭川医科大のみで 2 年連続大幅増加の反動で大幅減少、近畿(90)は奈良県立医科大のみで 2 年連続減少、中国・四国(96)は山口大のみでやや減少で 2 年連続減少。

複数大学の募集がある 4 地区で増減が目立ったのは、東海・北陸(127)、関東・甲信越(119)はいずれも大幅増加。一方で、九州・沖縄(69)は大幅減少、東北(89)は減少。

## ○東北(89)

秋田大(83)は 3 年連続増加の反動で大幅減少。山形大(97)は 2 年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。

## ○関東・甲信越(119)

山梨大(132)は個別試験に外国語を追加し負担増となったが、教科試験が医学科前期の標準的である「数学 + 理科 2 + 外国語」となり、併願しやすくなったことに加えて、前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、東京医科歯科大(85)は 2 年連続増加の反動で大幅減少、千葉大(91)は減少で志願者数は 4 年ぶりに 380 人を下回った。

## ○東海・北陸(127)

福井大(198)は北陸新幹線の延伸を控えて関東からの交通の利便向上と前年度大幅減少の反動でほぼ倍増、2018 年度以降は前年度の反動による大幅な増減が継続。名古屋大(118)は前年度<地域枠>を<一般枠>に変更して倍増だったが、さらに 2 年連続大幅増加。三重大(108)は増加。一方で、浜松医科大(72)は前年度 2.3 倍増以上だった反動で大幅減少。

## ○九州・沖縄(69)

鹿児島大(109)は第 1 段階選抜基準の緩和に加えて、前年度大幅減少の反動で増加。一方で、宮崎大(40)は前年度 3 倍増以上だった反動で激減、琉球大(77)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。佐賀大(100)は前年度の志願者数と同数。

〔大学別志願状況〕

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2024年度		2023年度		志願倍率			コメント
				共通	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2024年度	2023年度	2022年度	
北海道	旭川医科大		前	550	350	-41	85	40	225	40	266	5.6	6.7	4.5	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も6.7倍→5.6倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は89.3%だった。
			後	600	250	-237	56	8	297	8	534	37.1	66.8	27.6	2年連続大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も66.8倍→37.1倍に大幅ダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は41.1%だった。
	北海道大		前	300	525	+4	101	89	295	90	291	3.3	3.2	3.2	3年連続減少の反動はなく、前年度並。志願者数は2年連続で300人を下回った。 ※募集人員はフロンティア入試の欠員分の4人を含む(2023年度5人)。
	札幌医科大	先進研修連携枠	前	700	700	-30	66	20	57	20	87	2.9	4.4	3.1	前年度大幅増加の反動で減少。一般枠は大幅減少で志願倍率も4.4倍→2.9倍にダウン、先進研修連携枠はやや減少。
東北	弘前大	青森県定着枠	前	1000	500	+30	109	50	368	50	338	7.4	6.8	5.1	青森県定着枠は、3年連続大幅増加。一般枠も3年連続増加で、志願者数は前期全体で5年ぶりに550人を上回った。
	東北大		前	250	950	+52	122	77	289	77	237	3.8	3.1	3.1	<変更点> 第1段階選抜基準：約3.0倍→約3.5倍 第1段階選抜実施基準の緩和に加えて、募集人員が77人になって以降3年連続減少の反動で大幅増加。第1段階選抜が実施され、合格率は93.4%だった。
	秋田大		前	550	400	+27	112	55	258	55	231	4.7	4.2	4.0	2年連続増加。志願倍率は4年連続4倍台。
			後	700	300	-78	83	20	369	20	447	18.5	22.4	17.0	一般枠は前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は22.4倍→18.5倍にダウン。秋田県地域枠も2年連続増加の反動で減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は74.2%だった。
		秋田県地域枠		450	250	-6	89	4	50	4	56	12.5	14.0	12.5	
山形大		地域枠	前	900	700	-60	83	60	288	65	348	4.8	5.4	5.4	<変更点> <個>国+数+理2+外+面⇒数+理2+外+面 入試科目から国語が除外されたが、一般枠は大幅減少で2年連続減少、地域枠は前年度大幅減少の反動で大幅増加。
			後	900	100	-11	97	15	318	15	329	21.2	21.9	17.9	2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は79.2%だった。
福島県立医科大	地域枠	前	650	660	-70	85	45	404	49	474	9.0	9.7	5.7	医学科全体では減少で、2017年度以降は前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は63.6%だった。	
関東・甲信越	筑波大	地域枠(茨城県内対地域枠(全国対象))	前	900	1400	+45	138	46	165	47	120	3.6	2.6	3.0	一般枠は2年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率は2.6倍→3.6倍にアップ。地域枠は2年連続大幅増加。志願倍率も3.3倍→4.9倍にアップ。一般枠では2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は69.7%だった。
	群馬大	地域医療枠	前	450	450	+22	108	65	288	65	266	4.4	4.1	4.4	一般枠は増加。志願倍率は3年連続4倍台。地域医療枠は2年連続増加の反動で減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は75.1%だった。
			後												
	千葉大	千葉県地域枠	前	450	1000	+18	106	82	311	82	293	3.8	3.6	3.1	一般枠は前年度増加に引き続きやや増加。地域枠は前年度大幅減少の反動で激増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は一般枠が79.1%、地域枠が69.8%だった。
			後	450	1000	-35	91	15	371	15	406	24.7	27.1	26.7	
	東京大		前	110	440	-4	99	97	416	97	420	4.3	4.3	4.3	2年連続前年度並。志願者数は3年連続400人台。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は70.0%だった。
	東京医科歯科大		前	180	360	-12	96	69	296	69	308	4.3	4.5	3.8	やや減少。志願倍率は2年連続4倍台。
			後	500	200	-31	85	10	173	10	204	17.3	20.4	16.8	2年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は20.4倍→17.3倍にダウン。

2024年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2024年度		2023年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2024年度	2023年度	2022年度	
関東・甲信越	横浜市立大		前	1000	1400	+22	110	58	250	58	228	3.6	3.3	3.3	<変更点> 募集人員：<神奈川県指定診療科枠>2人⇒3人 医学部全体で増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は84.4%だった。
		地域医療枠						9		9					
		神奈川県指定診療科枠						3		2					
	新潟大		前	750	1200	+23	107	80	367	80	344	4.6	4.3	4.3	やや増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は87.2%だった。
山梨大		後	900	2300	+431	132	90	1764	90	1333	19.6	14.8	18.0	<変更点> <共テ> 国<200>+歴公<100>+数2<100>+理2<100>+外<600>=総点<1,100> ⇒国<200>+歴公<100>+数2<200>+理2<200>+外<200>=総点<900> <個> 数<600>+理2<600>+面<総合評価>=総点<1,200> ⇒数<600>+理2<1,000>+外<600>+面<100>=総点<2,300> 個別試験に外国語を追加し負担増となったが、教科試験が医学科前期の標準的である「数学+理科2+外国語」となり、併願しやすくなったことに加えて、前年度大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は51.6%だった。	
信州大		前	450	600	+66	117	85	446	95	380	5.2	4.0	4.0	<変更点> 募集人員：95人⇒85人 募集人員を10人(11%)減少も近隣の岐阜大の第1段階選抜基準の強化の影響で大幅増加。志願倍率も4.0倍⇒5.2倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は76.2%だった。	
東海・北陸	富山大		前	900	700	-199	53	70	222	70	421	3.2	6.0	3.1	前年度ほぼ倍増の反動でほぼ半減。
	金沢大		前	450	1050	+35	112	82	326	84	291	4.0	3.5	2.9	<変更点> 募集人員：84人⇒82人 募集人員を2人(2%)減少も2年連続増加で、志願倍率も3.5倍⇒4.0倍にアップ。
	福井大		前	900	700	+54	126	55	262	55	208	4.8	3.8	6.7	北陸新幹線の延伸を控えて関東からの交通の利便向上と前年度大幅減少の反動で大幅増加。
			後	450	220	+297	198	25	599	25	302	24.0	12.1	15.9	上記交通の利便向上と前年度大幅減少の反動でほぼ倍増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は54.3%だった。
	岐阜大		前	900	1200	-391	34	55	202	55	593	3.7	10.8	10.4	<変更点> 第1段階選抜基準：約9倍⇒約3倍 第1段階選抜基準の強化と2年連続大幅増加の反動で激減。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は81.7%だった。
浜松医科大		前	450	700	-151	67	69	307	68	458	4.4	6.7	3.6	<変更点> 募集人員：<一般枠>68人⇒69人 <地域枠>7人⇒6人 前年度激増の反動で大幅減少。特に地域枠は募集人員1人(14%)減少もあり激減。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は93.5%だった。	
	地域枠		450	700	-23	38	6	14	7	37	2.3	5.3	3.3		
		後	900	350	-88	71	14	215	14	303	15.4	21.6	9.1	医学科全体では、前年度2.3倍以上だった反動で大幅減少。一般枠は大幅減少で地域枠は増加と対照的。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は81.9%だった。	
	地域枠		900	350	+1	109	1	12	1	11	12.0	11.0	8.0		
名古屋大		前	900	1650	+27	112	85	254	85	227	3.0	2.7	1.7	前年度激増した反動はなくやや増加。一般枠は前年度50%を超える大幅増加の反動はなく引き続き増加。前年度新設された地域枠は大幅減少。	
	地域枠		900	1650	-9	61	5	14	5	23	2.8	4.6			
		後	900	0	+14	118	5	90	5	76	18.0	15.2	7.6	前年度より募集枠を地域枠から一般枠に変更して倍増だったが、さらに2年連続大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は66.7%だった。 ※2022年度志願倍率は地域枠	

2024年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2024年度		2023年度		志願倍率			コメント	
				共通	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2024年度	2023年度	2022年度		
東海・北陸	三重大	三重県地域医療枠	前	600	700	+249	171	70	599	70	350	8.0	4.7	5.2	近隣の奈良県立医科大の教科試験除外の影響で激増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は63.1%だった。	
			後	600	300	+17	108	10	229	10	212	22.9	21.2	21.3		
	名古屋市立大		前	550	1200	-17	91	60	181	60	198	3.0	3.3	2.7	<変更点> 第1段階選抜基準： 「総配点550点中の概ね71%以上の者を対象に募集人員の約3倍」を23/1/18に「総配点550点中400点以上(概ね73%以上)の者を対象に約3倍」に変更 →「総配点550点中の概ね73%以上の者を対象に募集人員の約3倍」を24/1/18に「総配点550点中407点以上(概ね74%以上)の者を対象に約3倍」に変更 前年度大幅増加の反動で減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は95.0%だった。	
近畿	滋賀医科大		前	600	600	+49	127	53	231	55	182	4.4	3.3	5.4	<変更点> 募集人員：<一般枠>55人⇒53人 <地域医療枠>5人⇒7人 前年度大幅減少の反動で大幅増加。地域医療枠は志願者数は前年度と同数だが、募集人員が2人(40%)増加で、志願倍率は7.4倍⇒5.3倍にダウン。	
	地域医療枠	前	600	600	±0	100	7	37	5	37	5.3	7.4	22.0			
	京都大		前	250	1000	+1	100	102	288	105	287	2.8	2.7	2.5	前年度増加の反動はなく前年度並だが、志願者数は6年連続300人以下。	
	大阪大		前	500	1500	+21	109	92	256	92	235	2.8	2.6	2.7	前年度減少の反動で増加。前年度の反動による増減が継続。	
	神戸大		前	360	450	+22	109	92	278	92	256	3.0	2.8	2.7	前年度やや増加に引き続き増加。志願倍率は5年ぶりに3倍を上回った。	
	京都府立医科大		前	450	600	-63	82	100	289	100	352	2.9	3.5	2.9	3年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は3.5倍⇒2.9倍にダウン。	
	大阪公立大		前	650	800	+26	110	75	275	75	249	3.4	3.1	1.9	2年連続増加。志願倍率は2年連続3倍台。	
	大阪府指定医療枠	前					5		5							
		奈良県立医科大		前	900	100	-167	25	22	57	22	224	2.6	10.2	6.5	<変更点> <共通>国<100>+歴公<100>+数2<200>+理2<300>+外<200>=総点<450> ※最終合格者決定の際には、共通テスト得点の合計を1/2倍にし、450点満点とする。 ⇒国<100>+歴公<100>+数2<200>+理2<300>+外<200>=総点<900> <個>数<150>+理<150>+外<150>+面<総合評価>=総点<450> ⇒論<100>+面<総合評価>=総点<100> 教科試験除外と前年度大幅増加の反動で75%の激減、志願者数は60人を下回り、募集人員が22人になった2013年度以降最少。志願倍率は10.2倍⇒2.6倍に大幅ダウン。
			後	300	900	-102	90	53	895	53	997	16.9	18.8	24.7		
	和歌山県立医科大		前	600	700	+134	189	64	284	64	150	4.4	2.3	3.7	近隣の奈良県立医科大の教科試験除外の影響と前年度大幅減少の反動で激増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は一般枠は77.8%、県民医療枠は63.8%だった。	
	県民医療枠A				+7	121	10	41	10	34	4.1	3.4				
	県民医療枠C				+7	170	2	17	2	10	8.5	5.0				
中国	鳥取大		前	900	700	-228	46	58	194	58	422	2.5	5.3	2.7	前年度ほぼ倍増の反動でほぼ半減。志願倍率も5.3倍⇒2.5倍にダウン。	
	鳥取県枠						14		14							
	兵庫県枠						2		2							
	島根県枠						5		5							
		島根大		前	700	460	-144	76	55	451	55	595	8.2	10.8	7.1	一般枠は2年連続増加の反動で大幅減少。定着枠も3年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率も18.0倍⇒12.0倍にダウン。
	県内定着枠				-18	67	3	36	3	54	12.0	18.0	12.7			

2024年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	方式	日程	配点		志願者数増減		2024年度		2023年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2024年度	2023年度	2022年度	
中国	岡山大		前	500	1100	+21	108	95	291	95	270	3.1	2.8	5.5	前年度半減の反動で増加。
	広島大		前	900	1800	-27	94	90	397	90	424	4.4	4.7	6.9	やや減少で2年連続減少。志願者数は400人を下回った。
	山口大		前	900	600	-59	85	55	322	55	381	5.9	6.9	3.9	前年度大幅増加の反動で大幅減少。
四国	徳島大		前	900	400	-49	75	62	146	62	195	2.4	3.1	2.7	前年度増加の反動で大幅減少。前年度の反動による増減が継続。
			地域枠	900	500			3		3					
	香川大		前	700	700	+126	144	70	410	70	284	5.2	3.6	6.6	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は3.6倍→5.2倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は77.1%だった。
愛媛大		前	450	700	+326	234	55	569	55	243	10.3	4.4	7.1	<変更点> <共テ>リーディング<90>+リスニング<10> =合計<100> ⇒リーディング<80>+リスニング<20> =合計<100> 2年連続大幅減少の反動と共通テストの英語の配点をリーディング：リスニング(9：1)⇒(4：1)と一般的な配点に変更したこともあり2.3倍以上。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は58.0%だった。	
		地域枠	900	1000	+96	127	55	446	55	328	7.4	6.0	4.1	2年連続大幅増加。志願倍率は5.8倍→7.4倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は76.2%だった。	
九州・沖縄	九州大		前	450	700	-4	99	105	265	105	269	2.5	2.6	2.8	前年度減少の反動はなく、前年度並。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は92.5%だった。
	佐賀大		前	630	300	-43	81	50	187	50	230	3.7	4.6	4.6	大幅減少で6年連続減少、志願者数は200人を下回った。
			後	630	120	±0	100	10	223	10	223	22.3	22.3	22.7	前年度の志願者数と同数。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は74.9%だった。
	長崎大		前	450	800	+315	215	76	588	71	273	7.7	3.8	6.0	<変更点> 募集人員：71人⇒76人 前年度大幅減少の反動と募集人員の5人(7%)増加もあり倍増以上。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は64.8%だった。
	熊本大		前	400	800	+67	118	87	433	87	366	5.0	4.2	5.1	前年度大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は82.2%だった。
	大分大		前	450	550	-29	93	55	366	55	395	5.6	6.1	3.9	2年連続大幅増加の反動は小さくやや減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は53.8%だった。
			地元出身者枠					10		10					
	宮崎大		前	900	600	-32	89	45	250	45	282	5.6	6.3	5.6	前年度増加の反動で減少。2018年度以降前年度の反動による増減が継続。
			後	900	150	-518	40	15	350	15	868	23.3	57.9	18.8	前年度3倍増以上だった反動で激減。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は85.7%だった。
	鹿児島大		前	900	920	-37	89	69	294	69	331	4.3	4.8	3.9	2年連続増加の反動で減少。
後			900	320	+28	109	21	341	21	313	16.2	14.9	16.3	<変更点> 第1段階選抜基準：約8倍⇒約10倍 第1段階選抜基準の緩和に加えて、前年度大幅減少の反動で増加。	
琉球大		前	900	800	-74	82	70	347	70	421	5.0	6.0	4.9	3年連続増加の反動で大幅減少。	
		後	1000	300	-159	77	25	523	25	682	20.9	27.3	14.1	前年度大幅増加の反動で大幅減少。2020年度以降前年度の反動による大幅増減が継続。	